



16 区 | 蕨 平 行政区

地理



震災後、長期的に避難した影響により、現在居住している人はいない。木戸、菅沼、風兼、蕨平の4つの地区に分かれており、班などはあったが、コミュニティとしては一体であった。

隣接する南相馬市とは江戸時代以来、道が整備されており、つながりが深い。

全体として村内の中では標高が低いため、積雪量は少ない方である。本格的に雪が降る際は一晩で30cm積もることが多い。

文化・生活

農業は、稲作のほか、乳牛・和牛の畜産、たばこの生産も行われていた。震災前には農家全体で50戸ほどで、そのほとんどが兼業農家であった。その内、葉タバコ農家は4、5軒ほどであった。

稲作における共同体、いわゆる結（ゆい）としての作業は、機械化が進んだ50年ほど前までは広く行われていた。

先述の農業に加え、かつては林業・炭焼き等が盛んに行われていた。

木材は、薪としての利用が中心であった。江戸時代以来、南相馬市原町に売ることが多かった。当時、浜通り地域にとっては貴重だった薪を手に入れるための交流（婚姻などを含む）も行われていたようである。

林業はほとんどが自営業であり、山の所有から流通、販売まで個人で行っていたため、



真壁成行 行政区長

サラリーマンとして勤務しているほか、農業も営んでおり、稲作やトルコキキョウの栽培をしていた。震災前に地区の庶務を務めており、2023年に区長に就任した。現在は村外に住んでおり、自宅にはときどき通っている。

行政区長の思い：

原発が悪いということはないが、何もない（事故が起らない）ことが当たり前ではなかった。備えは全く出来ていなかった。自然の力には敵わない。

統一の事業所は少なかった。その後薪としての利用が減少した一方で、パルプやシイタケの原木として使われてきた。

2024年より、飯舘村や周辺市町村の線量の高い木材を活用した木質バイオマス発電所が操業を開始した。従業員は村外出身者が多数となっている。若者中心に地元の人の採用も行われているが、村内に定住している若年人口が少ない（2025年5月時点）ため、働き手が見つからないのが実情である。

飯舘村は、方言や税務署の管轄などは相馬地方とのつながりが深いが、登記など法務局においては川俣町（現在は相馬市）の管轄となっていた。村民は、福島・川俣方面から相馬・原町方面まで様々な方面の高校に進学していた。

年に一回開かれていた村の運動会には、縄もじり競争など、文化を反映したものもあった。

蕨平にある神社は、他地域にあったものを分祀したものである。地区の施設完成時など何か大きな出来事があった際には、住民が集まり宝財踊り、田植え踊りや子供たちによる手踊りなどの奉納が行われていた。

震災前からサル、イノシシの獣害が発生しており、特に震災後は農地が荒らされている。現在定住している者がいないため、状況が悪化している。

店 事業所

数十年前には、日鉄鉱業の鉱山が立地していた。

飲食店はなく、雑貨店は酒屋など3軒あったが、震災前には1軒になっていた。酒やたばこも販売していた。

他に移動販売があった。村内外の鮮魚類や食料品等の移動販売が週に一回程度、衣料品等を販売する業者が月に数回、行政区を訪れていた。

コラム

【飯舘みらい発電所】

熊谷組や東京電力などが出資する「飯舘バイオパートナーズ株式会社」が運営する木質バイオマス発電所だ。2024年9月に営業を開始した。

燃料には放射性物質の影響が残る福島県内の森林の木材を中心に、間伐材や樹皮を使用している。発電量は年間 5,300 万 kWh（一般家庭約 17,000 世帯相当）ほどで、固定価格買取制度により、東北電力 NW に売電している。



▲ 飯舘みらい発電所入口の看板



▲ バイオマス発電に使われている貯木場

▼ 大雷神社



人口

4人

1983年	266人
1998年	220人
最新(2020年)	2011年 166人



▲ 蕨平行政区とその周辺を紹介する看板



▲ 大雷神社から東方を望む。右下に見えるのは行政区をつらぬく比曽川